

2019年度（令和元年度）広島市立大学卒業式
芸術学部長メッセージ

2019年度卒業生・修了生の皆さん、本日は卒業・修了おめでとうございます。皆さんの門出を心より祝福いたします。

私は、先日開催された卒業修了制作展で皆さんの全ての作品を見せていただき、改めて芸術の魅力を実感しました。それぞれの作品には、若い作者の感性が宿り、見る側に豊かな想像力を与えてくれました。また同時に、自分が理想とする美を追求しながら、現実との間で格闘した痕跡を見ることが出来ました。

社会に出れば、これまで以上に現実が目の前に押し寄せ、今日における社会性を問われる機会も多くなることと思います。そんな時、自分が理想とする世界を追求し、美的価値観と現実との間で格闘しながら制作した日々を思い出してください。人と人との関係だけでなく、自分と作品との関係から自身の立ち位置を見出してください。グローバルな社会や多数意見がいつも私達に正しい選択を示してくれるとは限りません。作品との対話から独自の世界観を現出する芸術家の能力は、今の社会に必要なものだと私は思います。

残念なことですが、2019年度の卒業式は新型コロナウイルス感染を避けるために縮小され、私達教員も皆さんと対面でお話しする時間を十分に取ることが出来ません。しかし皆さんの制作に対する真摯な姿勢とその作品を私達教員は心に刻んでいます。

どんな仕事に就いてもどんな環境であっても、皆さんが創作者であり芸術家であることを私は願います。

2020年（令和2年）3月23日

公立大学法人広島市立大学 芸術学部長・芸術学研究科長
伊東 敏光